

緊急寄稿

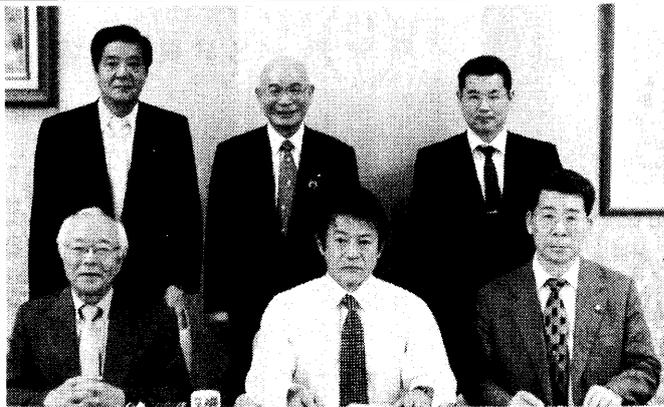
真実・水の安全保障特命委員会のゆくえ

吉村 和就

米国発サブプライム問題の安全保障特命委員会」をに端を発し、今や世界中の金融機関が大混乱している。その最中、日本では9月24日に麻生新政権が誕生し、水の安全保障研究会の委員長、中川昭一議員が財務・金融担当大臣に任命された。昨年12月以来、「水

水問題解決は私の政治生命であり、最後までやり通す

9月29日、中川大臣より筆者に直接電話があり、「明日30日昼に財務大臣室に来るように」と要請があった。折しもこの日は第170臨時国会が招集され、中川大臣の財政演説「補正予算の概要」の説明が衆参本会議でなされる直前の連絡である。翌30日の財務大臣室、



中川昭一・水の安全保障特命委員会委員長（現財務・金融担当大臣）を囲んで。前列右端が筆者

招請されていた特命委員会の幹部メンバー、遠藤武彦副委員長、竹下巨事務局長（財務副大臣）、竹村公太郎・日本水フォーラム事務局長、筆者および関係者とともに席に着くと、中川大臣から開口一番「皆さんに心配を掛けて申し訳ない、水問題の解決は、私の政治生命であり、最後までやり通したい」。しかし「私には

水関係だけでも合計13兆円のコストが必要だ

これは中央公論8月号に

これは9月に発売された

私が先頭に立ち、水問題を判りやすく国民に知らせたい

中川委員長は多くの講演会でマスコミで「水問題に関する情報発信」をしてきている。後援会をはじめ、東京ミッドタウンでの環境フォーラム、大学等で多くの人々に語りかけている。7月4日、東大安田講堂で開催された「水の知」では「水のために政治ができること」と題し「水の安全保

中川委員長と毎週、水曜日早朝から水問題について意見を交わしてきたが、大臣となった今でも「水問題にかけるとなると、水問題に熱」に心を打たれた。思い起こせば、中川委員長の「水」に掛ける主義主張は一貫している。

これは9月に発売された中川昭一著「飛翔する日本」(講談社インターナショナル)第2章「複雑化する多極競争にどう勝つか」の項「深刻化する水問題」に書かれた内容である。国際紛争と水資源、食料と水問題、バイオエネルギーと水問題、水資源行政の整備の問題、水資源の権利の問題等、中川先生の私的勉強会を含め3年間に渡る水研究の成果が凝縮しており、しかも

これは財務および金融担当大臣に任命されたから「新閣僚に聞く」のコメントである。記者の質問は「景気対策として公共事業を活用する考えは？」中川大臣の回答は「社会資本整備には安全・安心と景気に与える効果の両方がある。老朽化する上下水道の整備だけでも140兆円が必要との試算もある。これは無駄な公共事業では決してない。道路の改修や崖崩れ対策、大都市の水害対策など安全・安心のための防災対策は必要だ」と明確に述べている。水インフラを所管する主務大臣ならいざ知らず、金庫番である財務大臣が水インフラの重要性やそのコストを明言したことは、水関係に長年携わってきた関係者にとり至福のメッセージであった。

中川委員長の水への熱い「思い」

中川委員長が寄稿した「日本を豊かにする」と挨拶された。食生活を挟みチーム水・日本の全体像や「水の安全保障戦略機構(仮称)」、今後の人選等についてかなり突っ込んだ内容が討議された。内容については今は公表できないが、今後の政局の成り行きを待つことになる。中川大臣からは一貫して「水問題に最後まで取り組む強い意志」が発せられた。筆者は昨年12月以来、

水の有効活用と資源の保護、まず水行政を一本化するべきだ

これは財務および金融担当大臣に任命されたから「新閣僚に聞く」のコメントである。記者の質問は「景気対策として公共事業を活用する考えは？」中川大臣の回答は「社会資本整備には安全・安心と景気に与える効果の両方がある。老朽化する上下水道の整備だけでも140兆円が必要との試算もある。これは無駄な公共事業では決してない。道路の改修や崖崩れ対策、大都市の水害対策など安全・安心のための防災対策は必要だ」と明確に述べている。水インフラを所管する主務大臣ならいざ知らず、金庫番である財務大臣が水インフラの重要性やそのコストを明言したことは、水関係に長年携わってきた関係者にとり至福のメッセージであった。